

 書評

 Barnhill JW 原書編集, 高橋三郎 監訳, 塩入俊樹, 市川直樹 訳
DSM-5® ケースファイル

松永寿人

2013年に米国精神医学会によって刊行されたDSM-5®は、DSM-IV以来約20年ぶりに改訂された精神疾患の分類体系、および診断基準である。これにより、精神医学あるいは精神科臨床は新時代を迎えたと言える。特にこの20年間には、精神疾患の生物学的病態、中でも遺伝を中心とした病因や脳内メカニズムの解明が進展し、これがDSM-5®の改訂プロセスに大きく影響したことは言うまでもない。またこれらの知見は、新規向精神薬の開発といった新たな治療法の探求を促すものとなり、臨床における進歩にも多大な貢献を果たしてきた。

その一方、現代社会は、急激に変貌する中で多様化・複雑化し、災害や社会・経済、治安、そして健康上の問題など、心身の健康を損なうようなストレス状況が生じやすくなっている。特に不安や喪失には、社会全体で共有される側面もあり、現代は人々の心が蝕まれ、不安定化しやすい時代と言えるであろう。たとえば、労働を含む社会的環境、あるいはその変化にうまく順応できず、うつ病や不安症といった精神疾患を発病し、精神科を受診する人が急増している。さらに急速に進む高齢化やがんなどの身体疾患患者の心のケアなど、精神科医療のニーズはより拡大しつつある。その中でみられる精神科的問題には、その臨床像や背景の個性性がますます顕著となり、診断にも苦慮するような複雑なケースは決して少なくない。

このような時代において、良質で適切な精神科医療を提供していくためにまず重要なことは、患者の病像を的確に把握し、正確な診断を行うことである。特にDSM-5®を使いこなし診断的信頼性を高める

上で、各精神疾患のイメージを共有するとともに、併存症や身体疾患との関連性への意識、そして十分な診断スキルを身につける必要性はきわめて高い。

この点、本書『DSM-5® ケースファイル』は、米国精神医学会によるDSM-5®関連書の一つで、DSM-5®診断に関する症例集でありガイドである。本書はその日本語版として、高橋三郎先生の監訳のもと、岐阜大学大学院精神病理学分野の塩入俊樹先生、市川直樹先生らの、丁寧に正確な翻訳により作成された。

本書に示された症例数は103例に及び、中には「自閉スペクトラム症」「月経前不快気分障害」「ためこみ症」「ギャンブル障害」など、DSM-5®で初めて採用された疾患が含まれ、さらにリエゾン精神医学の領域、すなわち医学的疾患に伴う精神症状の診断に関しても詳細な解説が加えられている。また各症例の解説には、DSM-IVからの変更点についても明快に記述されており、診断概念の変遷に関するポイントも理解しやすい。特に日本語版では、読者の便宜性を考慮し、各診断基準のDSM-5®日本語版本体の対応ページが示されている。

このように本書は、DSM-5®に準拠した最新の精神科診断を学び、臨床や研究に応用する上でもきわめて有用な実践書であり、精神科医にとどまらず、精神科臨床にかかわる全ての関係者にとって、価値ある必読のテキストと言えるであろう。

(兵庫医科大学教授・精神科)

●A5 448頁 2015年6月 定価: 本体6,000円+税 医学書院刊